

CIEC 第 95 回研究会報告

テーマ：「未来の教室環境を考える」

日 時：2012 年 6 月 16 日（土）13:00-16:30

会 場：内田洋行 ユビキタス協創広場 CANVAS 7 階（東京都中央区新川 2-4-7）

参加者：32 名

小中高等学校の「未来の教室」について検討するための本年度最初の研究会として、小中高部会が企画した。この研究会では、教室のインフラ整備やそれを使いこなすためのヒントを中心に、内田洋行の設置した未来の教室を想定した施設で、講義と実習の形式で、研究会を開催した。

■フューチャークラブルーム機能紹介

はじめに、内田洋行教育総合研究所の青木栄太氏により会場となるフューチャークラブルームの機能やコンセプトについて紹介があった。この会場は、これからの社会で求められる 3 つの能力と 12 の能力要素をもとに考えられ、これからの学習環境を構築したとのことであった。会場は、日本の教室サイズの中に可変式の家具を導入し、自由なレイアウトを作れるだけでなく、すべての壁面を、自由に電子黒板として活用することができるように設計されていた。この壁面は電子黒板として機能することはもちろんのこと、すべてがマグネットがつくようになっており、さまざまな教材提示の方法が考えることができる。



また自動車やドラえもんを実物大に投影し、その大きさを実際に計測できるような工夫もソフトウェアにより実現されていた。すべての LED 照明やプロジェクタは iPad のコントロールで制御されており、画面内容の変更やズームなども iPad 上で簡単に操作できる。また各壁面のプロジェクタは、長短焦点プロジェクタが配置されており、授業の邪魔にならないような工夫もなされていた。小学校の先生や児童の目線で作られた、新しいコンセプトの教室でどのような授業が展開できるのか、参加者の関心も高まった。

■模擬授業

続いて、内田洋行ソリューション&サービスビジネス部の池田記子氏より、デモンストレーションと模擬授業が行われた。簡単に電子黒板の設置場所を変更するために、壁面に

シールのようなマグネットを貼り付けるだけで、電子黒板の設定が完了するという興味深いデモンストレーションが行われた。

また、模擬授業では、各グループに配付された PC またはタブレット PC によって、「3×3 に配置された点を 4 本の繋がった直線で通過する問題」、「直線を 3 本にしたときの問題」、算数オリンピックの問題として、計算問題と図形の面積の問題が出題され、参加者は、生徒になったかのように一生懸命にとき、グループ発表をしていた。この際、授業支援システムで、各グループの進行状況を壁面でモニターし、各タブレットの画面を壁面に大きく映し出すなどの展開方法をデモンストレーションした。



■教室機能の体験，他モデルルーム見学

他のフロアでの教室機能の体験やモデルルームの見学を行った。ここでは、電子教科書のネットを通じた配信、可動式の天吊りプロジェクタ、教材に IC タグを付けて、調べ学習や体験学習を行う試みなどを体験した。

■ディスカッション

最後にディスカッションとして、参加者の感想を聞くとともに、これからの未来に教室に求められるデバイスについて議論を深めた。

参加者からは、実物大に投影したり、床に投影したり、先生の画面だけでなく、生徒個々の画面を映すなどのプロジェクタの新しい発想を感じたとの意見があった。生徒が考えた経過をそのまま映し出すことに関しては、前に出たがらない生徒の意見も取り込める工夫となり得るとの意見もあった。

また、参加者からは教材をクラウドでの共有する、授業の工夫について、さまざまなアイデアが出された。無線 LAN が普及しすぎて、干渉する問題やコンテンツや課題の著作権、学生の著作権に関する意識などに関しても、意見が出された。

さらに、今できるインフラ整備として、あまりお金を掛けないで行える工夫やどんな学校でも行える実践などに関してもさまざまな意見が出され、多くのアイデアを得ることができた研究会であった。

文責：大橋真也（千葉県立船橋啓明高等学校）